

認定看護師資格取得支援など キャリアアップ支援が充実

医療法人沖縄徳洲会湘南鎌倉総合病院は51の診療科を掲げる619床の急性期病院。2010年に神奈川県鎌倉市岡本に新築移転し、救急診療部を拡大、屋上にはヘリポートを備え、13年には北米型ERを併設した救命救急センターをオープンし、患者受け入れ体制を強化。「年中無休、24時間オープン」「救急患者さんは決して断らない」を掲げ、1日当たりの新規入院患者は平均60人、今年11月には1日107人と同院過去最多の入院患者を受け入れた。

同院は医療提供体制の拡充と並行し、職員の働く環境づくりにも力を注いできた。新卒看護師については毎年約60人採用している。

急性期病院で看護師としての基礎的なスキルを磨きたい新卒看護師にとって、国際病院評価機構（JCI）認証も受けている同院のブランド力は大きな魅力だが、加えて新卒看護師に対する手厚いフォローも看護師を引き付ける理由になっている。看護師教育にはクリニカルラダーとプリセプター制度を採用。新卒看護師は1年かけて集合研修と現場教育を

してやりたいこと』の考えをしつかりと持つようにと話しています。その

うえで、自分が看護師として進みたい道を歩めるよう、病院を挙げて支援しています（康明子看護部長）

康看護部長は、自身はもちろんのこと日頃から師長クラスの看護師にも、看護師一人ひとりへの声かけを行ってコミュニケーションを深めるように指導。また、年に1度、書面での意向調査を実施し、不安や悩みを抱える看護師に対しては面談形式で相談に乗っている。

さらに、全国各地から職員が集まる同院では職員互助会の活動も盛んで、夏祭り、職員旅行、忘年会などの行事や、クラブ・サークル活動を通して職員が交流を深めている。

「新卒職員も、飲み会やサークル活動に参加するなかで同期や先輩との絆をさらに深めることができています。医師の知識や技術だけでなく、精神面においてもサポートできる体制が当院にはあります」（康看護部長）

診療科や職種を超え 協力し合える風土

このような環境は、院外のみならず院内にも浸透している。同院では



充実したキャリア支援と 診療科・職種を超えた交流で 「自分のやりたい看護」を実現

医療法人沖縄徳洲会
湘南鎌倉総合病院



医療法人沖縄徳洲会
湘南鎌倉総合病院

神奈川県鎌倉市岡本 1370-1
TEL: 0467-46-1717
URL: <http://www.shonankamakura.or.jp/>
診療科目: 内科、心療内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、形成外科、美容外科、脳神経外科、呼吸器外科、消化器外科、心血管外科、皮膚科、泌尿器科、肛門外科、産科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、気管食道外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、腎臓内科、血液内科、糖尿病内分泌科、救急科、美容皮膚科、血管外科、乳腺外科、腫瘍外科、脳血管内外科、腫瘍内科、人工透析内科、胸部外科、大腸外科、胃外科、内視鏡外科、内視鏡内科、漢方内科、血管内科、心臓内科、肝臓・胆のう・膵臓内科、精神科、脊椎脊髄外科
病床数: 619床(救命救急センター20床(ECU10床・病棟10床)、ICU8床、LDR3床、無菌個室5床、HCU44床)
職員数: 1,632人(2015年4月1日現在)

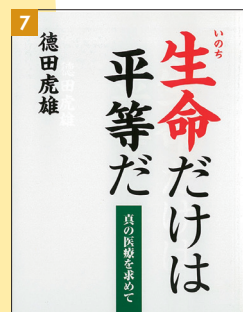
撮影＝原 恵美子



湘南鎌倉総合病院看護部では、認定看護師取得のための支援制度を設けるなど、看護師のキャリアアップを積極的に支援している。さらに、その背景には診療科や職種の垣根を超えて学び合う・助け合う風土があり、一度同院を辞めた看護師の再就職の理由にもなるなど、同院の魅力となっている。



- 1 手厚い教育体制に魅力を感じ入職する職員も多い
- 2 陽が差し込み開放感のあるロビー
- 3 康明子看護部長
- 4 島袋朋子看護副部長
- 5 看護部長室の前にはポストが設置されており看護部職員からの声が集まる
- 6 互助会のサークル活動で職員同士の交流が深まる
- 7 職員一人ひとりが小冊子を持ち同法人の理念を共有



るケースもあるという。

「理由を尋ねると、『当院には患者さんのために職員同士が診療科や職種を超えて協力し合う風土があること』が他の病院を経験してわかった」という声が聞かれることもあり、うれしく思っています（康看護部長）

各部署では、診療科や部署の異なる職員を講師に招いた講習会を頻繁に開催。参加者に対しては「学びたい人は誰でもウェルカム」という雰囲気があり、たとえば看護部を対象とした心不全についての研修会に、心臓リハビリに携わるPTが自主的に参加することもあるという。

「患者さんへの医療提供の現場でも、診療科をまたいだ交流が日常的にあります。たとえば、ある診療科で尿道カテーテルの挿入がうまくいかなかった時には、泌尿器科の医師に声をかければ、快くアドバイスをいただけます。『患者さんに最適な医療を提供するために、自分ができることは協力する』という風土が当院には根づいています」（島袋朋子看護副部長）

今後は、有給休暇のスムーズな取得や、リフレッシュの場の提供を実現し、職員がさらに集まる病院になることをめざしていく。

急性期病院としての忙しさから離職してしまう看護師も少なからずいる

が、一方で、一度辞めた看護師が他院での勤務を経験した後に再就職す